ぞうぐみだより

2022年度　３月最終号
尚徳福祉会生麦保育園

春の訪れを、あちらこちらで感じられるようになってきました。子どもたちは小学校へ行くドキドキと喜びを全身で表現しています。楽しみにしているチューリップの花はまだ咲いていませんが、毎日プランターに話しかけたり、水をあげたりする姿が微笑ましい子どもたちです。

ぞうぐみこぼれ話

普段からおしゃべりが大好きなぞう組の子どもたち。保育者がノートを記入している時も「ねぇねぇ」「お話しようよ」とお誘いがあります。毎日、朝や給食の時間に子どもたちと話すのがとても楽しみな担任です。女の子は「　せんせいは好きな人いるの？」「先生はお母さんいる？お父さんは？」と私の身の回りのことが気になる様子。男の子たちは「カービィのゲームやりに来ていいよ」「先生僕の家に遊びに来て」となぜか家に誘われることも（笑）みんな自分の話だけでなく、友だちや私の話に「うんうん」と相槌を打ってくれる姿が可愛らしいぞう組です。

お別れ遠足では、電車に乗って「はまぎん宇宙科学館」へ行きました。お弁当も電車移動も全てがとても楽しかったようで遠足から数日たった今でも「またいきたい」「みんなで行けて楽しかったね」「また行こうね」と子どもたちの思い出に残っているようでした。朝早くの登園、お弁当や水筒の準備などご協力ありがとうございました！

ドキドキの小学校交流

先月、２回生麦小学校へ行きました。１回目の小学校交流では１年生のお兄さんお姉さんと歌を一緒に歌ったり、５年生に小学校内を案内してもらいながら探検したりと今まで言葉でしか聞いたことがなかった「小学校」がどんな所か明確に分かったようでした。教室で文字を書くブースや、ドングリこまやぶんぶんごまができるブースなどを体験させてもらうと大喜びでした。子どもたちからぶんぶんゴマを作りたい！とリクエストがあったので制作する予定です。２回目の「ボッチャ」は全員が初めて参加するスポーツだったこともあり、始めは戸惑っていましたが回数を重ねていくうちに楽しんでいました。今回の経験を通して「保育園が好き」でも「小学校早く行きたい」と複雑な気持ちがありながらも期待を持っている様子でした。

１年を振り返って

昨年の４月、ぞう組の保育室で子どもたちと「どんなぞう組になりたいか」を話しました。「優しいぞう組」と自分たちで決め、１年間過ごしてきました。いいこともそうでないこともたくさんの経験が、子どもたちの自信に繋がったように感じています。元気いっぱいに見えるクラスでしたが、実は失敗するのが怖くて少し怖がりなぞう組の子どもたちでしたが、私が失敗しても「大丈夫」といつも励ましてくれたのは子どもたちでした。心も身体も成長し、一緒に過ごしていく中で更に関わりが深まり互いの良い所や頑張っている姿を認め合えるようになりました。家での出来事や、楽しかったこと、悲しかったこと、たくさん教えてくれました。友だちとの関わりも大きな変化が見られ、困っている友だちを見ると声を掛けに行く姿や、保育者がいないところで言い合いになり、泣いて助けを求めに来ることも何度もありました。少しずつではありますが、失敗することを恐れずに、挑戦することができるようになった子どもたちの姿を見て１年の成長を感じています。至らない部分が多く保護者の皆様にもご迷惑をかけることもたくさんありましたが、ご理解・ご協力いただきありがとうございました。小学生になった子どもたちの成長を私も楽しみにしています！！